

# 既存ビジネスで培った経験を 環境分野の事業に活かし、進化を目指す

## 事業内容

住宅用建材資材総合メーカーとして、椅子張地等家具用資材の企画開発・販売、インテリア資材、カーテン・クロス・カーペット・床材等の販売。マイナスイオンの発生やアレレルゲン物質の吸着・分解、静電気の防止をはじめとした多機能素材「CEP®」の販売、土壌改良剤（環境浄化剤）「環炭®」シリーズなどの環境、エコ対応商品の開発・販売も手掛ける。独立行政法人農業環境技術研究所との共同特許、PCT 国際特許出願中。

## 特許登録番号と内容

特許公開 2010 - 253401	有害物質吸着錠剤（独立法人農業環境技術研究所との共同特許）
特許公開 2010 - 089005	多機能水溶性シート（独立法人農業環境技術研究所との共同特許）
特許公開 2005 - 133236	アレレルゲン発生因子低減方法、該方法に使用の微細混合物及び微細混合物の適用品
商標登録第 4883139 号	cep
商標登録第 5350790 号	蒔いて環炭

他、特許公開1件、登録実用新案1件、商標登録2件（2012年3月現在）



代表取締役社長 上田孝治さん

## 「困っているなら手助けを」の精神が 新規ビジネスの原動力に

カーテンや壁紙他、住宅用の資材の企画から販売を手掛けるシンコールグループ。東京シンコール株式会社は、その一員として東京や群馬、栃木、茨城エリアを担当している。また近年は、独自の活動として環境ビジネスにも注力している。

同社の環境ビジネスの柱である「環炭®（かんたん）」シリーズは、独立法人農業環境技術研究所との共同研究から誕生した有害物質を吸着する多機能吸着剤。シリーズには、タブレット状・ペレット状の「蒔いて環炭」と、水を掛けると高性能微粒子活性炭シートが分散する「敷いて環炭」があり、土壌改良や水質浄化の革新的な手法として期待を集める。たとえば汚染物質のヘドロを処理する際、そのまま汲み上げると有害物質を攪拌し、汚染のダメージを拡大する恐れがある。しかし有害物質を吸着すれば、スムーズに処理できるという。ほかにも農地の土壌や地下・井戸水の改良など活用範囲は広い。

今までとまるで違う分野へ参入したのは、自社の商品に付加価値をつけようと、エコ事業部を立ち上げたことがきっかけだった。上田孝治代表取締役社長は「体にも環境にもやさしい商品の開発過程で評価用自社商材を提供したことから、農業環境技術研究所さまとご縁が生まれました」と話す。研究所の先生方と話しをする

うち、農地の粉じん対策の話が出た。土壌改良のために活性炭などを均一に撒くのは難しいし、粉が飛び散って作業者の顔や手、服を汚してしまうことが多い。これをなんとかしたいというのだ。

開発部研究室の福井博章主席研究員は「それなら弊社の壁紙の技術が役立つのではないかと思います。3年ほど前のことです」と当時を振り返る。

こうして共同研究を開始。まさに手作りで試作を繰り返した。実は以前、他社が同様の目的で作った商品があるものの、普及には至らなかった。そこで何がいかなかったのかも検討しながら、機能性や形状、コストについても考えて材料の選定を行った。

試行錯誤をしながらなんとかかなりそうだと見通しが立ってくると、この技術には特許性があるのではないかと話も出てきた。

## 商品化を実現するために データ収集やインタビューを

特許申請をしたねらいは、まず商品化する権利を得るため。加えて福井さんは「インテリア業者が土壌改良について何を知っているのか、と思う人もいるかもしれません。しかし特許があれば、私たちにも安全な商品を作ることができると理解してもらえます。その証明材料としても、取得したいと考えました」と話す。

特許取得は比較的スムーズにいったものの、商品化

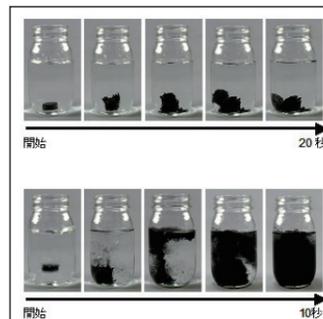
## COMPANY DATA

所在地：東京都北区西ヶ原 1-46-13 電話番号：(03)5961-1151

設立：1960年11月 資本金：9,000万円 売上高：39億円

従業員数：80人（2012年3月現在）

URL：http://www.t-sincol.co.jp/



環炭®の水中における崩壊制御  
タブレット状が数十秒で溶けるのも特長。水中に沈んで分散し、水を浄化する

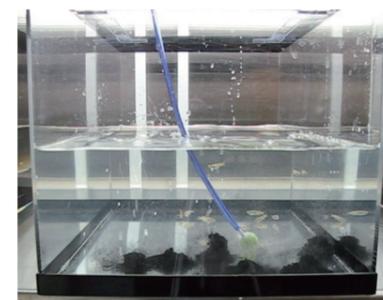
には苦労した。その一つが加工場探し。黒い粉体を使うので工場内や他の商品も汚れる心配がある上、第一売れるかどうかわからないからと、難色を示すところが多かった。また、社内でも従来とは違うジャンルの新規事業参入に、難色を示す人がいないわけではなかった。

そこでこの商品がビジネスとして成り立つことを証明しようと、福井主席研究員を中心にマーケティングとデータ収集を行う。農業関係者の力も借り、ニーズを把握するとともに、全国の農家の方々がどんなことに困っているかなどもアンケートや聞き取りで調査した。今までと畑違いの市場をリサーチするのは、簡単ではなかったが、それにより、購買ターゲットの生の声を聞いて商品を磨くことができたのは収穫だったという。これを基に改良が行われ、サンプル出荷を経て、1年前から本格的に販売を開始した。

インテリア商品を扱う同社は、量販店やホームセンター等に販路を持つ。これは今回の販売でも強みになった。上田社長は「ネット販売も視野に入れていますが、普及するまでは農業資材を置く店舗で地元の方に評価してもらいながら、徐々に市場を拡大したいと考えています」と営業プランを練っている。

## ニーズに応えながら 用途開発を進めていく

上田社長は、今後の課題の一つに用途開発を挙げる。現在もNPO等から海外の飲料水確保に利用できないかと相談が多いが「困っている人を手助けするのは、弊社のポリシー。



ヒメダカによる急性毒性試験（72時間）。食品精製などに使用される活性炭や特殊セルロースから作った「環炭®」は、安全に残留農薬を吸収し、メダカが棲める環境に改善



用途に合わせ、大きさも各種用意した

## 活用範囲の拡大を検討しながら 可能性を広げていく

「環炭®」シリーズは、高い機能にもかかわらず、材料はパルプと吸着剤のみ。このシンプルさや仕組みのわかりやすさ、安全性は海外からも高い評価を受け、今は市場性のあるところには、要望に応じてサンプルを出している段階だ。すでにPCTも出願し、福井さんは「今後は、現地ライセンス化を検討しながら、商標とともにブランド化して売り出そうかと考えています」と戦略を語る。

またこのシリーズは、吸着剤の種類を替えれば、吸着する対象物を替えることが可能なのも魅力。上田社長は「東北をはじめ、放射能汚染が心配される土壌の改善を目指し、セシウムの吸着資材も開発していきたい」と力強く話す。

家庭の庭や菜園から大規模な農園や河川など、さまざまな場所で活躍が期待されるこの商品。今後の成長が楽しみだ。

## 知的財産活用のポイント

要望に応えながら商品の可能性を広げたい」と話す。そして海外でも用途開発を特許出願し、販売権と合せてビジネスにつなげていければ、と話す。